ー旅の記憶収集プロジェクト（2016 年度）ー

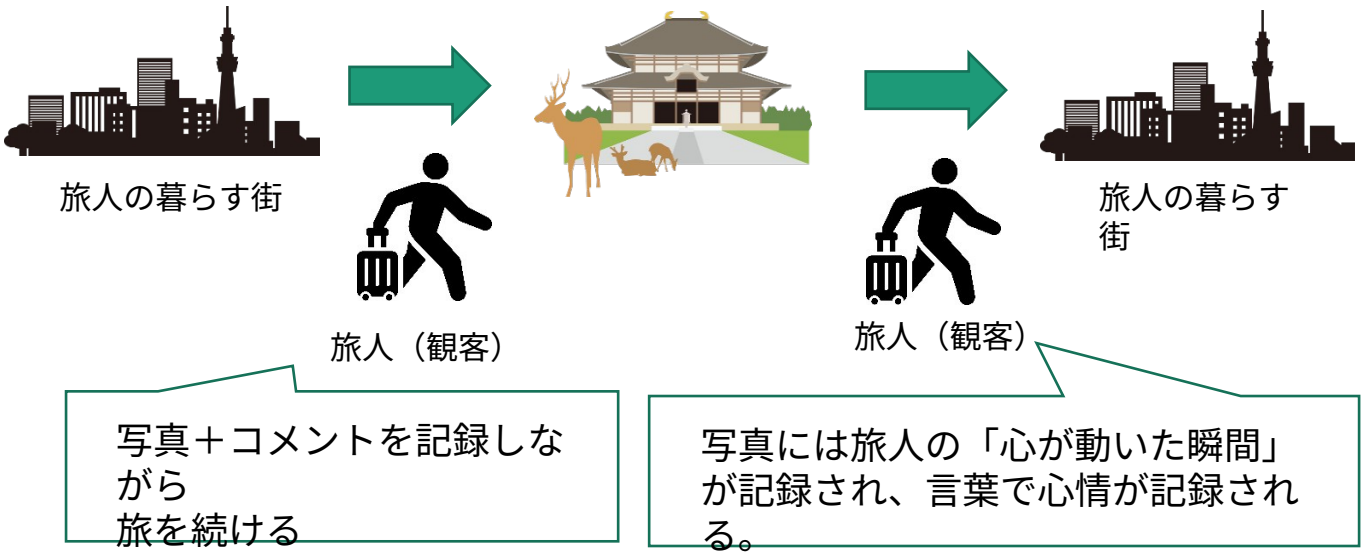
■プロジェクトの背景：

維新派の主宰、松本雄吉さんは維新派を記録に残すことにあまり関心がなかったそうです。活動⑦でのメンバーは、そこを起点に“維新派を記録すること”と向き合い、模索。１つの解として、維新派公演に足を運ぶ観客に注目しました。公演会場までの道のりで観客が見ていた景色や感じた想いを浮かび上がらせること･･･それが維新派という存在を描きだし、新たな記録として残せるのではないかと考えました。

■プロジェクト概要：

2016 年に行ったこのプロジェクトは、維新派の公演に足を運ぶ観客に協力を依頼し、実施されました。プロジェクトに参加したメンバーは「旅人」として、自宅から公演会場までの「旅」を記録しました。

自宅から公演会場までの道のりを「旅」とし、この間で旅人が気になった景色の写真を撮影、そのときの心情を言葉で書き留め、旅の記憶を収集した。



■プロジェクト詳細

◆「旅人」は維新派のメルマガでの募集＋活動⑦受講生で集まった 20 代～ 50 代の男女 10 名。居住地は東京、愛知、大阪、京都などに分散。ＳＮＳでのコミュケーションを苦にしないことを応募条件とした。

◆情報共有、調査上の依頼などは SNS 上にクローズドの旅人専用コミュニティを設定し、行った。（すべての旅人が直接顔を合わせたのは公演当日のみ）

◆「旅の足跡」は「写真日記」という手法を考案し、記録した。
旅の途上で気になるものがあったときや自分なりの節目を感じたときに普段扱いなれているメディア（スマートフォンやデジタルカメラ等）で“まばたきするように”写真を撮影する。
写真には下記 5 項目を添える。
①撮影日②撮影場所③何の写真か④撮ったときの状態⑤そのときの気持ち（後で思えば、でも OK)
＊本調査では、公演時間の 24 時間前を旅の始まりと定め、旅の終りは各旅人に一任。最終の写真日記は公演から 1 週間後の上演開始時間に実施した。

■プロジェクトからわかったこと

「維新派」という旅をめぐり、旅人は自分と世界を観察・確認しながらさまざまな感情をダイナミックに体験する。「維新派」は、旅人たちが日常生活の中で見過ごしがちな「自分自身」と出会い直し、新たな人生へと歩みを進めるための大きな原動力になっている。

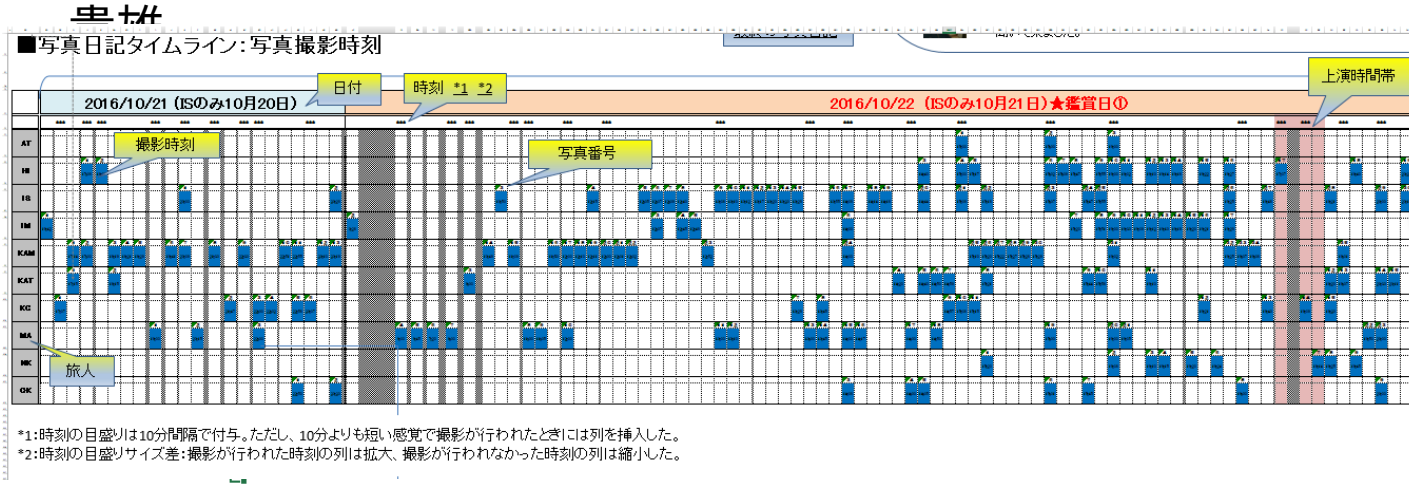
■展示作品について

①2016 年度に収集した旅人の画像をタイムライン上に整理し、スライドショーに編集。
9 分割したモニター画面に旅人ごとのタイムラインを同時に再生することで、個々の旅が維新派公演へと向かう１つの旅として表現した。

②旅人たちのそれぞれの旅を両脇で見守るように配置した植生の動画は、会場となった平城京跡のもの。

①次々と移り変わりながら進んでいく旅人の時間と、②動かないように見えてもゆったりと動き続ける植生たちの時間を並置することで、維新派公演が２つの異なる時間の要となっていることを表現しました。

◆映像編集協力：① hiroko matsui ② アイムスタジオ　井上



*1:時刻の目盛りは10分間隔で付与。ただし、10分よりも短い感覚で撮影が行われたときには列を挿入した。
*2:時刻の目盛りサイズ差:撮影が行われた時刻の列は拡大、撮影が行われなかった時刻の列は縮小した。

